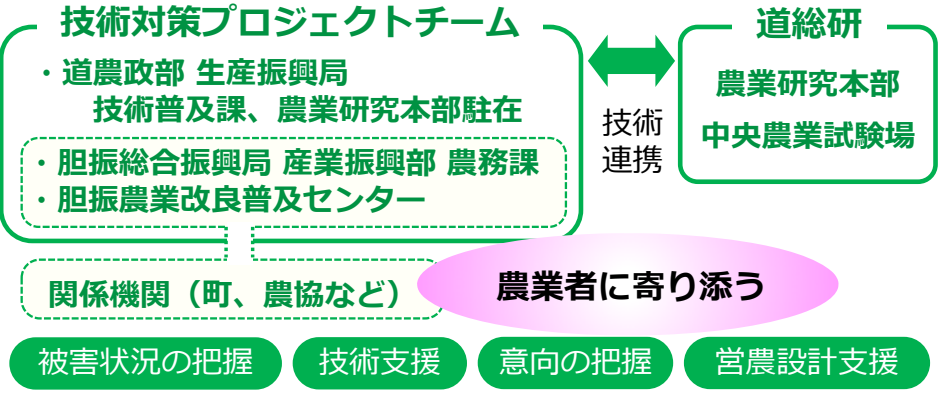


「平成30年北海道胆振東部地震」からの復興を支えた普及と試験研究の連携

概要 Abstract

- 9月6日、胆振東部3町（厚真町、安平町、むかわ町）で甚大な被害
- ▶ 普及と研究が連携して、被害実態に即した技術対策を提案
 - ▶ 農業者や農地の状況に合わせて地域農業の復旧を支援



成果 Results

H30年度

土砂などが流入した水田

当年秋に収穫ができない

被害実態を把握

普及と研究で技術対策を策定

- 未収穫物の処理方法
- 次年度の施肥対応 など

```

    graph TD
      A[收穫不能耕地認定] --> B[全損認定]
      B --> C{ほ場にコンバインが入れるか?}
      C -- YES --> D[安全を確保して刈取り(危険箇所は避ける)]
      C -- NO --> E{稲を搬出することは可能か?}
      D -- YES --> F[稲は廃棄処分(堆肥場等で堆肥化)]
      E -- YES --> G[ロールベラやフロントローダでの収集作業が可能か?]
      F --> H[例年同様のほ場管理を行う]
      G -- YES --> I[稲・稲わらを収集してほ場外に搬出する(堆肥場等で堆肥化)]
      E -- NO --> J{刈倒し作業は可能か?}
      I --> H
      J -- YES --> K[稲・稲わらを刈り倒してほ場内に放置(ほ場を傷める場合は翌春に実施する)]
      J -- NO --> L[翌春に作業を行う]
      K --> M[冬期間にフロントローダ等で稲わらの収集ができる場合は実施する]
  
```

普及と農協で綿密な技術指導、営農設計を支援

H31 (R1) ~ R2年度

技術対策の活用事例を検証 (①)

新たに確認された事例を調査 (②、③)

- ①生育、収量・品質、土壌調査

- ②地震で生じた水田の高低差を「見える」化

田面露出

水没

- ③花き生育ムラの要因を推定

①・②・③

技術対策活用事例集を作成 改善技術の実践を支援

R元年度の粗生産額→3町とも震災年と同等以上を確保
厚真町では、R2年度から全面積の水田で作付け可能に

普及 Dissemination

復興支援活動の経験を今後の備えに活用していく。

連絡先 Contact

胆振総合振興局
胆振農業改良普及センター
0142-23-3195
seiiburi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp